手に取りました。デビュー作ですが、奇想天外なトリックに引きつけられました。他の作品も読みましたが、面白い作品が多いと思います。

本作品は、後にイギリスの雑誌の密室ミステリーベスト10（第2位）にも日本人で唯一選ばれたようです。どんな分野の本でもよいので自分好みの作家を見つけてみてはどうでしょうか。

（島田　荘司著　講談社）

『神様のカルテ』

三年五組副担任
青木　亮一郎　先生

三年五組で、朝読の時間に一年間ずっと読んでいました。同じ本を持っていると気付いていた生徒がいるかもしれない。ちなみに、主人公は常に夏目漱石の「草枕」という本を持っている青年医です。数年前にドラマで実写化されていたので、知っている人はいるかもしれません。「24時間365日対応」を掲げた医者不足の地方病院の話です。近年コロナ禍の影響で逼迫している病院についてニュースをよく聞きました。この本を読むと常に患者に向き合っているお医者さんの苦労が伝わってきます。また、治ることなく最後には死んでしまう患者に対し、真摯に取り組む姿に感動を覚えます。

主人公を支える人々（妻、同僚の医者・看護士・同じ寮の住人・患者）がどれも魅力的に書かれていて、何回読んでも飽きない本でした。

（夏川草介著　小学館）

『思考の整理学』

三年六組副担任
加藤　啓紅　先生

この本は「東大・京大で一番読まれた本」というキャッチコピーで知られるロングセラー本である。

著者は、冒頭から「自力飛行ができないグライダーか、それともエンジン搭載の飛行機か」と問いかけてくる。そして、受動的な知識獲得だけでなく、自分でアイデアを生み軽やかに飛翔する創造的思考へのヒントを提示してくれる。

知識のメタ化、思考の発酵など、その独創的なアプローチから思わずうなずいてしまうに違いない。個性を触媒にして、知識と知識の化学反応を起こしてみませんか。

（外山滋比古著　筑摩書房）

『人間の達人　本田宗一郎』

三年七組副担任
海野　晃裕　先生

戦後の焼野原でのゼロスタートの創業から「世界のホンダ」を育てた天才技術者、経営者本田宗一郎さんの本です。活力とエネルギーをもらえる話です。

皆さま是非是非。

（伊丹敬之著　PHP研究所）

『フラニーとゾーイー』

クリエイティブデザイン科
岸本　杏奈　先生

「自分以外が全員バカで汚いものに見える」と苦しんで、現実での他者とのかかわりを一切遮断しようとする妹・フラニーに「そんな自分だってどうなの？」「どこにでもバカで汚いものはある、でもそこにいいものがある」と、さまざまな言葉を尽くして対話を試みようとする兄・ゾーイーの話。自分は偉い！　という自意識に振り回されそうになった時にぜひ手に取ってほしい一冊です。村上春樹が翻訳したものもあります。

（J・D・サリンジャー著　新潮社文庫）

『「一盌をどうぞ」私の歩んできた道』

セラミックアーツ科
谷川　俊　先生

著者の千玄室は裏千家のもとに生まれ、なに不自由のない生活のように思えるが、戦争時代海軍白菊特別攻撃隊として死を覚悟するが生還する。代々伝わる風習や、家系による重圧、選ぶことのできない人生や葛藤。人との縁により気づくことや家元としての決心や改革がよく書かれています。

読んでいると、テンポよく、「すごいなぁだけでなく、こんな人たちも、自分ではどうしようもない人生ってあるんだな」と思いました。

また自分の生き方はどうなのか？　といつの間にか考えさせられる本です。

（千玄室　著　ミネルヴァ書房）